



北は仙台、南は沖縄までの多くの方（150人強）の参加をえて、また新入会員も増えて「融合教育研究会設立1周年記念フォーラム」は、多大な成果を挙げて終了しました。後援をいただいた、「習志野市教育委員会」「I P A日本支部」「まちワーク研究会」「手をつなぐN P Oの会・千葉」には感謝いたします。

当日は、午前の部に

「第2回学校と地域の融合教育研究会総会」（略式）

講演「21世紀の生涯学習と学社融合」文部省生涯学習局生涯学習振興課長の寺脇研氏と続きました。

その後、昼食休憩をはさんで午後は、

パネルディスカッション「学社融合への具体的方策」（コーディネータ・岸副会長）

パネラーは分科会提案者が行いました。

ゲストスピーカーブライアン・アシュレイ氏（スウェーデン、社会学者・教育学者）の話

パネルディスカッションを聞いて、ご自身の考えと併せてのコメント。

分科会（パネラーの提言した内容の詳細を検討）

- ・分科会 は、「世代間をつなぐコミュニティ活動」ということで、千葉縣市川市サンシャインクラブ「瀧野英一」氏から
- ・分科会 は、「高齢社会と学校・社会の融合」ということで、仙台市シニアネットワーク「庄子平弥」氏から
- ・分科会 は、「学校・社会の融合と行政の役割」を、栃木県鹿沼市教育委員会「越田幸洋」氏から
- ・分科会 は、「過疎化地域における学校・社会の融合」を、山梨県早川町立早川南小学校PTA「望月利和」氏から
- ・分科会 は、「学校と地域との融合による町づくり」を、習志野市秋津コミュニティ「野口陽一」氏から、それぞれ提言していただきました。

どの内容も非常に熱気に溢れ、新しい教育を志向する教育改革の年にふさわしいフォーラムになりました。「時間的にピッチリで内容も多かったので疲れるほどでした。」という声も聞かれました。

講演内容およびパネルディスカッションと分科会記録の詳細、さらに参加した会員の声（原文のまま）も載せましたのでご覧ください。

18：30からは懇親会が、「秋津小学校コミュニティルーム」で行われました。フォーラムの成功を物語るように、「これなら懇親会も参加します。」という参加者がたくさんいらっしゃって、受け付けでの参加希望者の3倍近い数（約50人）で和気あいあいのうちに夜が更けるのも忘れて語り合いました。

講演に先立って開催された総会では、事業報告・事業計画が承認されました。また、役員は、設立2年目ということもあって、全員留任が決定しました。

（会長）宮崎 稔（習志野市立秋津小学校校長）

（副会長）岸 裕司（習志野市秋津コミュニティ会長、兼習志野市立秋津小学校コミュニティルーム運営委員長）

（同）空席

（監事）野沢令照（仙台市生涯学習部主査、兼社会教育主事）

（同）吉川真紀（習志野市立秋津小学校コミュニティルーム運営委員）

（事務局長）宮崎雅子（千葉手をつなぐN P Oの会・千葉）

（事務局）野口陽一（習志野市秋津コミュニティ副会長、兼習志野市立秋津小学校コ

ミュニティルーム運営副委員長)

(同) 矢吹正徳 (日本教育新聞編集局記者)

8月1日～10月20日の間に届いた**会員からのたより**

(抜粋)

(お近くの会員同士の情報交換ができるよう会長の判断で実名を使わせていただきます。)

(前略)校舎内の様子を拝見し、秋津小学校の教育がこれからの我が国の教育をリードするモデルとなり得ることを実感させていただきました。学社融合教育研究の実際を垣間みる思いでいっぱいです。(北海道教育庁胆振教育局、佐々木郁夫様)はじめまして。金沢のコンサルタントの方から、こちらの先進的な取組みと融合教育研究会のことを知りました。実は、わたしも教育現場にまちづくりを導入したときの都市計画上の利点と教育効果に注目して、ただいま論文を書いています。我が市は、比較的保守的でありあまり先進的な事例が見られません。行政も教育と都市計画とを結びつけるという発想すら浮かばないようです。2002年からの総合学習導入と住民参加のまちづくりの機運や高齢化による生涯学習の必要性和学校開放。そちらの取組みはこれからのモデルケースになると確信しています。(金沢市、田丸文崇様)私は、カウンセリング心理学と社会心理学を学んだ者として、いじめなどの教育現場における諸問題の解決のためには、問題の子を治すという考え方ではなく、大多数の子どもへの向社会的行動を促進させて思いやり行動を起こさせるという考え方が大切であり、その促進の動機付けに大きな影響を与える要因として、援助規範意識と共感性に注目いたしました。そして、日ごろから地域社会人と接することで、これらを持つ度合いが高くまたコミュニティ意識も高く、向社会的行動を起こしやすいのではないかと仮説を立てました。(中略)秋津のようなコミュニティで育ったお子さんと他の地域の生徒における調査結果の比較を行いたく存じます。なお研究とは別に、秋津小学校に遊びに行かせていただきたく考えております。(筑波大学大学院、藤代富広様)

会員からの研究情報と出版物(会報第2号・4号のつづき)

事務局に届いた会員からの研究についての情報および会員が執筆している出版物の紹介です。関心のある領域については、ご自分で問い合わせるか、事務局までご連絡ください。

1. 家庭・学校・地域の連携・融合のすすめ(国立教育会館社会教育研修所発行「ぎょうせい」より出版 1,000円と税)

長島洋会員が担当し、宮崎会長、越田幸洋会員が執筆しています。全国の各教育委員会に配布されました。希望者が多くて増刷しています。

2. 学校と地域のネットワーク(「ぎょうせい」より出版 2,800円)

著者には、本会の結城光夫、澤田実、広瀬隆人、長島洋会員が、また実践事例は、宮崎会長、野沢監事、越田幸洋会員、押田俊郎会員が執筆しています。具体例が多く、使いやすい本です。

3. 特色ある教育活動と学校経営(「教育開発研究所」出版 2,350円)

宮崎会長が執筆しています。理論と実践がほどよく組み合わされて参考になります。

4. 隔月刊「ひとネットワーク」3号(「ひと」編集部編集 太郎次郎社発行)

学校と地域の融合へー元気が出るよ、秋津コミュニティ地域の日常に「新しい公共性」をつくりだす実践を、岸副会長が執筆しています。

5. 季刊「はあとくらぶ」No.20夏号 98年8月(金の星社発行のPR誌)

ほろ酔いおじさんのごろごろ図書室 以後連載を岸副会長が執筆しています。

6. 月刊「学校図書館」98年9月号(社)全国学校図書館協議会発行

「学校に異質な人が入ってくる」地域ボランティアによる教育の活性化を岸副会長が執筆しています。

7. 連載中 旬刊「出版ダイジェスト」97年3月1日より奇数月1日号(株)出版研究会「図書館へ行こう」を、岸副会長が執筆中。

紹介記事

・日本教育新聞1998年8月22日「教育の論点・学校をどう開くか」

庄子平弥会員(仙台シニアネットクラブ)と、越田幸洋会員(鹿沼市教育委員会)のコメントが大きく取り上げられています。

・日本教育新聞(10月3日号)「異論・正論」

中央教育審議会答申の「学校評議委員」について、岸副会長の考えが紹介されています。

・KIRACO(Vol.13)「訪ねて、住んでみて」

「EQの上がるまち」と題して、富田守会員が『学校教育の場を地域に開放し活用するための8つの具体的提言をしています。

出版物に執筆したり、紹介記事がある方は事務局までご連絡ください。

これまでお寄せいただきながら、事務局の不手際でまだこの欄に紹介されていないものがありましたら、それも併せてご連絡ください。

会の活動は「実践研究と交流」「情報交換」を主旨としております。そこで、会長・副会長の情報活動およびその活動母体である秋津小学校および秋津コミュニティの動きを再び報告します。

会員の皆様で、融合教育に連なる研究活動がございましたら、事務局までご連絡ください。特に、これから行われる事業については会員の参加の便宜を図るためにも、是非知らせていただきたいと思います。

会長・副会長および秋津の活動 10.8.1~12.20

8.1 融合教育研究会設立1周年記念フォーラム

(フォーラムの様子は、次の2紙に掲載されました。)

読売新聞・千葉版 1998.8.2 「地域と学校の協力を探る / 学校と地域の融合教育研究会・1周年記念フォーラム」を開催

地域教育新聞 1998.8.21号 「教育改革 まずは原点への回帰を / 学校と地域の融合教育研究会が設立1周年記念フォーラムを開催」

- 8.6 千葉県総合教育センター特別活動講座で講演「岸裕司」
- 8.6 千葉県生涯学習講座で講演「宮崎稔」
- 8.7 福岡県三樓町より1名参観
- 8.8 テレビ朝日より取材
- 8.25 新潟県生涯学習推進センターでの「生涯学習関連施設職員等研修会」のパネラーとして参加「宮崎稔」(この講座では、ほかに越田幸洋会員もパネラーでした)
- 8.26 長崎県生涯学習講座で講演「宮崎稔」
- 9.11 静岡県御殿場市役所より12名参観
- 9.19 秋津小学校「第3回学校と地域の大会」開催(ちばテレビ取材)
- 9.30 全国生涯学習フェスティバル(明石市)で講演「岸裕司」(この会には、本会の「越田幸洋」会員もパネラーとして参加しました)
- 10.3 朝日新聞より取材
- 10.5 「教育新聞」掲載 地域の大人・子どもにとって大切な教材 千葉県習志野市立秋津小学校の試み
- 10.6 北海道胆振教育事務所より1名参観
- 10.6 千葉縣市川市青年会議所主催「地域社会における教育活動講演会」で講演「宮崎稔」
- 10.10 秋津紹介のホームページを開設
- 10.16 名古屋より大西貴久会員が参観
- 10.22 千葉県東総地区校長会より17名参観
- 10.17 テレビ朝日より取材
- 10.22 千葉県東総校長会より17名参観
- 10.22 国立教育会館虎ノ門ホールでの「全国市町村教育委員会委員重点課題研究協議会」で、事例発表「宮崎稔」
- 10.23 秋津っ子祭
- 10.24 秋津まつり(～25日)・・・おばけ屋敷・秋津っ子バザー開催
- 10.26 日本経済新聞より取材
- 11.7 朝日新聞より取材(11月16日び掲載されました)
- 11.8 広島県 いま「協同」を問う98全国集会 「学社融合」教育が未来を切り拓く(於 広島女子大学)で講演「岸裕司」
- 11.13 民間放送教育協会主催「第34回全国大会」シンポジウム「どうする? 21世紀の教育」で秋津小学校が、テレビ朝日取材のビデオで紹介されました。ちなみにシンポジストは、有馬文部大臣、佐藤学東大教授、如月小春(劇作家)さんと、本会の斎藤茂男会員です。
- 11.16 朝日新聞に掲載
- 11.16 秋田県総合教育センターより2名参観
- 11.21 山梨県上野原町教育委員会より8名参観
- 11.21 ちばテレビ取材(1月13日に放映されます)
- 11.25 静岡県清水市より5名、袋井市より2名、茨城県大洗町より22名参観。

- 11.26 新潟県見附小より1名、静岡県清水市より2名、合計3名参観
- 11.27 国立教育会館 第23回全国教育研究大会にパネラーとして参加「岸裕司
- 11.28 秋津コミュニティの「蚊帳の海一座」公演 演目「渦巻く月」
(29日は、午前と午後に公演)
- 12. 1 千葉県市川市校長会より参観
- 12. 2 国立社会教育研修所でのシンポジウム「子どもが参加するまちづくり」に事例発表「宮崎稔」
- 12. 3 鎌ヶ谷市PTA連絡協議会より29名参観(高岡正種会員も参加)
- 12.10 京都市教育委員会より4名参観
- 12.19 融合研究会第2回**ミニフォーラム**

融合研究会第2回**ミニフォーラム**のご案内

下記の内容で、今年もミニフォーラムを開催します。今回はとくに、融合教育について実践事例の紹介に留まることなく、総合的に理論化することを目指して取り組みたいと考えております。会員の豊富な実践事例をもとに、実態が違っても取り組みが可能になるよう、より客観性と永続性のある方策の推進のため、理論的にも確固たるものにしませんか。年末のお忙しい時期ですが、ぜひともご参加くださるようご案内いたします。

- 1. 日時 平成10年12月19日(土) 13:00より17:00
(途中参加、途中退席は自由です。 ご都合のつく時間にどうぞ。)
- 2. 内容 学社交流 学社連携 そして「学社融合」が21世紀の教育を切り開く
(提言者)・山本 恒夫会員(筑波大学教授)
・越田 幸洋会員(鹿沼市教育委員会)
- 3. 場所 習志野市秋津小学校コミュニティルーム
- 4. 申込 できるだけ事前にFAXでお願いします(当日受け付けもしています)
- 5. 会費 会員は、1,100円 会員外は、1,500円
(終了後に懇親会を予定しています。会費1,000円)

山本恒夫会員について

日本生涯学習学会の会長で、文字どおり日本の生涯学習研究のリーダー。融合研の発足の時からの会員で、理論的にも精神的にも会員の支柱。著書は多数。

越田幸洋会員について

鹿沼市における行政からの継続的な生涯学習実践は多彩。著書(共同執筆)は多数。また最近、全国各地での講演も多い。融合研の発足時からの会員。

会費納入のお願い

本年度分の会員会費(年間2,000円)が未納の方は、下記までお送りください。

- ・ 銀行振込み 「千葉銀行習志野袖ヶ浦支店(店番号038) 普通口座3105928
- 融合教育研究会 宮崎稔」
- ・ 事務局または、秋津小学校「宮崎」まで郵送
- ・ 12月19日のミニフォーラムに持参していただく。

編集後記

会報の発行が遅れてしまったことをお詫びもうしあげます。8月1日に終了したフォーラムの詳細が今になってしまいましたこと、申し訳なく思います。

実は、理由が二つあります。一つは、いただいた記録の整理に戸惑ってしまったこと(一部分科会の模様をテープから起こしましたが、これがたいへん時間のかかる作業でした。みなさん仕事を持ちながらですので、これからは、記録の取り方を工夫したいと思います。もう一つは、いよいよパソコンで会報を作るようにしたことです。馴れない

ため、ワープロのときと違って、間違ったり消えてしまったりで、四苦八苦。でもこうしないと覚えないということで、なんとかやり抜きました。まだいろいろと見にくい点があると思いますが、ご容赦ください。

第2回ミニフォーラムの報告

第2回ミニフォーラムが、年末の忙しい時期にも関わらず多くの参加者を得て開催されました。今回は、融合教育について実践事例の紹介に留まることなく、総合的に理論化することを目指して取り組みたいとの考えから、会員の豊富な実践事例をもとに、実態が違う所でも取り組みが可能になるよう、より客観性と永続性のある方策を推進するための理論的な学習に視点をおいて行われました。特に「連携と融合の違い」について、筑波大学教授「山本恒夫」会員と、都合で出席できなくなった越田幸洋会員に代わって、秋津小学校長「宮崎稔」会長の提言をもとに活発な論議の中で進行しました。会議の内容を添付しましたので参照ください。

資料未着の方へ

途中入会の会員には、入会と同時にこれまでの会報や秋津小学校が受賞した読売教育賞論文を郵送しています。しかし、事務の煩雑さのため、会員になりながらまだ次の資料が届いていない方がいるかと思えます。必要な方は、郵送いたしますのでご連絡ください。

入会時に郵送される資料

- ・ 会報（1号～6号）
- ・ 会員名簿（今回、同封しました）
- ・ 本会設立時（1997・8・3）の資料...会則が載っています
- ・ 秋津小の読売教育賞受賞論文

融合研のホームページ

ができました。インターネットを行っている方は、開いて見てください。

アドレス

これは、習志野市秋津のホームページです。そこから、融合研をリンクしてください。

なお、会員が入会しています「シニアネット仙台」や第1回フォーラムで事例発表をいただいた早川南小学校区も、このアドレスで同様にリンクできます